



表題 田中 定子（入所者）

- ☆入所生活風景より
- ☆デイケア、ショートステイ紹介
- ☆職員研究発表会より
- ☆痴呆の介護について
- ☆夜警員紹介
- ☆ボランティア紹介

発 行

社会福祉法人 石川県社会福祉事業団

介護老人保健施設 老健ホームいしかわ

〒920-3102 金沢市忠綱町144番地1

TEL 076-257-7101

FAX 076-257-7102

利用に関する相談・見学等は随時行っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい

1年のうつりがわり

四季折々の楽しい行事を通して、単調になりがちな日常生活に変化をつけています。
また、地域の人々とのふれあいを大切にし、交流を深めています。

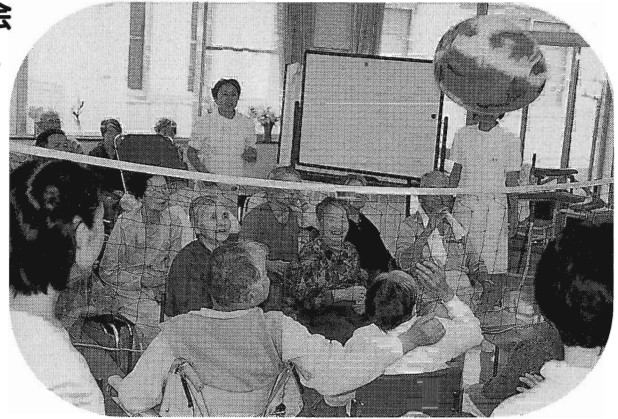
クリスマス会



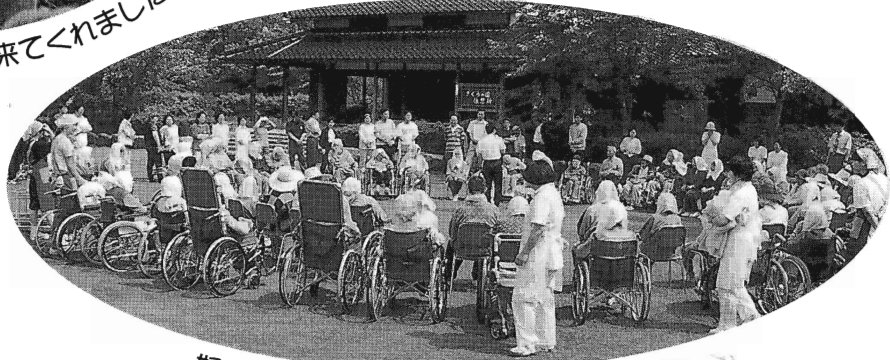
可愛い可愛い保育園児が慰問に来てくれました。

風船バレーボール大会

みんな大好きな風船バレー。
素敵なお顔がいっぱい。



県職員初任者研修交流



好天の下、芝生の上で若者と交流しました。



毎年恒例の納涼盆踊り

たのしかった盆踊り。来年が待ち遠しい。

日々の生活

北棟



北療養棟でのリハビリ体操です。
療法士さんといっしょに“ハイ！手足を
挙げてー！”みんなとても上手です。

サイコロゲームも楽しそう
“3が出ましたよー！”



リ ハ ビ リ



リハビリ室にて、一生懸命
手作業施行中。手先を使うと
全身が活性化しますよ。



リハビリは個別プログラムにより
個々人に応じたものを行います。
皆さん意欲をもって行っています。

食事や入浴などの介護サービス、リハビリテーション
(機能訓練)を日帰りで行います。



家庭とはひと味違った雰囲気です。

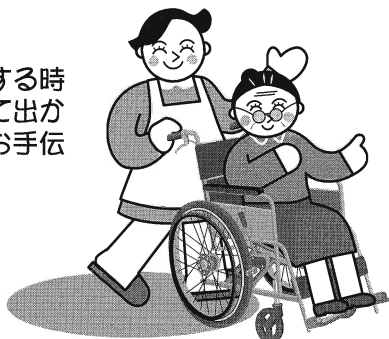


墨絵をされる方も。
趣味に応じて好まれる
ものを行っています。

デイケア紹介
(通所リハビリテーション)

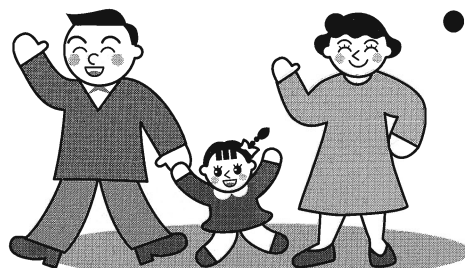
短期間入所し、食事や入浴などの介護サービス
やリハビリテーションを行います。

- ご家族が旅行する時
など、安心して出か
けられるようお手伝
いします。

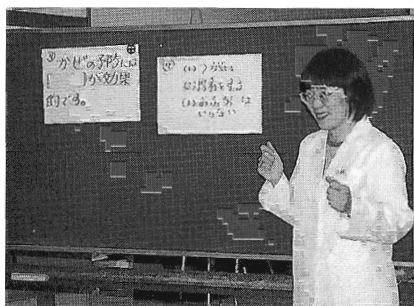
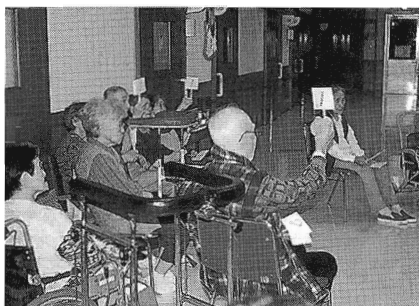


ショートステイ紹介 (短期入所療養介護)

- ご家庭での介護疲れ
をいやし、気持ちの
リフレッシュを！



栄養指導



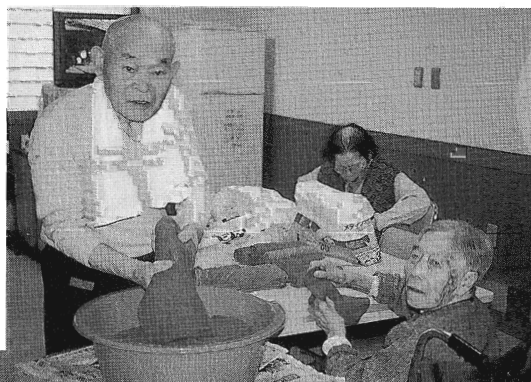
毎月テーマを設けて週1回の栄養士による栄養教室を開いています。

正しい食生活の知識を身につけてイキイキ健康ライフを送りましょう。

東南棟

毎日、皆で作業をしています。自分達の仕事だと思い、やりがいを持って、頑張ってくれています。

最近は、「エプロンは、まだ乾いてないの?」「今日は、タオルしぼりは?」などと、入所者側からせかされるしだいです。



〈タオルしぼり〉

皆で協力して、流れ作業で頑張っているよ!
皆でやれば早い、早い。



〈エプロンたたみ〉

食事で使うエプロンを毎日たたんでくれてありがとう。



寄 附

多大なるご寄附ありがとうございます。皆様の善意に感謝いたします。

- ・ 加賀市民生児童委員協議会女性部 様
- ・ 柿木 豊男 様

(平成12年9月21日~22日)

職員研究発表会より

当施設では業務の質の向上の為、施設内職員の研究発表会を毎年行っています。今年は7題の出題がありました。その中から1題ご紹介したいと思います。

痴呆棟入所による混乱、不安の軽減 ～独居生活での習慣を取り入れて～

北療養棟 岩谷 由伊子
越田 京子
中村 仁美

【はじめに】

在宅から施設（特に痴呆棟）に入所した場合、環境の違いから、生活に順応できずに、混乱が生じる場合が多い。今回、独居生活から痴呆症状出現の為、入所に至った利用者を対象に、その混乱や不安を和らげるアプローチを試みたので報告する。

【事例紹介】

A氏 女性79歳、アルツハイマー型痴呆
要介護Ⅰ（障害自立度Ⅱ2、痴呆自立度Ⅱb）
HDS-R 15点

夫死亡後、独居生活を続けていたが、H7頃より痴呆症状が出現。デイサービスやホームヘルプ等を利用していたが、対応困難となり、近所の方や姉妹から促されて入所となる。

しかし、本人は在宅生活継続を望んでおり、帰宅要求、物盗られ妄想、不安言動等の訴えが続き、うつ傾向となる。表情も陰しく、夜間の不眠や、興奮状態がみられる。

【方法・経過】

1. 不安の内容を把握し対応を統一する

不安内容	訴え時の対応
入所費用が心配	高額ではない。 妹さんから支払われている。
年金・貯金・家の管理	妹さんが管理しているので 心配しなくても良い。
私は、なぜここに いるのか？ 自分はようになって しまったのか？	物忘れがひどくなり、高血 圧も悪化した為、しばらく の間、治療しに来ている。

2. 在宅での生活習慣を取り入れる

- ①在宅生活の間は、朝夕にお地藏さん参りをし、お花を供えていた。
- ②近所の花畑等で花を育て、周辺の草むしりを行っていた。

①②の情報により、職員が付き添いのもとで、中庭での花づくり、草むしりに出かけ、棟内にお参りができるように壇を設けた。又、作業中の反応や夜間の睡眠状態精神状態を記録した。

3. 顔なじみ、愛用品、落ちつける環境を提供する

顔なじみ	なじみやすい性格の為、他者との関係は良好。
愛用品	大切な品物である為、紙に包んで、片付けてしまう。衣類管理も困難。
環境	外での作業により、気分転換を図りストレスを軽減する。 不安になった際は壇でのお参りをすすめる。

【結 果】

入所当初は、帰宅要求が続き、自発的な行動は全く無く、意欲の低下が見られた。しかし「草むしり」「花づくり」「お参り」等を日課に取り入れてからは、徐々に表情が良くなり、活気が見られてきた。

日課を継続することにより、自ら「草むしりに行きたい」と申し出たり、朝晩に壇で、お参り（読経）をするようになった。又、同じように不安をかかえている他入所者への話し相手やお世話をする等自主性や、積極性が見られるようになった。

時々、経済的な面や、家のことを思い出し、不安を訴える事もあるが、独居生活を続けてきたY氏にとっては、当然な心配事である。

家族が無く、外出、外泊も不可能である為、訴えを傾聴し、不安な気持ちを理解し共感することで対応している。

【おわりに】

ほんの少し「見守りの手」さえあれば、まだまだ、自宅での社会生活を営む事も可能な、軽度痴呆老人だが、物忘れが出現した事で痴呆の診断を受け、痴呆棟に隔離される。そして、そのストレスや、不自由を抱えた生活を余儀なくされている。

そんな中、軽度の痴呆者が、隔離される事で、たちまち重度に移行してゆくケースも少なくない。

ノーマライゼーション、在宅支援も、まだまだ独居生活者には手をさしのべていないようだ。

一人では外の空気も吸う事が出来ない隔離空間の中で、本来ならば、付き添って外に外出してくれる職員は、毎日忙しそうに動き回り、個々のニーズに応じることが出来ないのが現実である。

今回の事例を通して、入所者がストレスや不自由を少しでも感じないような環境作り、支援を行ってゆくことが、必要であると感じた。

痴呆の介護について

老健ホームいしかわへ入所利用されている方達の8割以上は、程度は様々ですが痴呆があります。若い人達の中でも痴呆になりたくない、なったらどうしよう、ならないためにどうしたら良いか、等、不安を感じている人は多いと思われます。痴呆の内服治療薬が20世紀後半に開発され、今世紀前半中には特効薬が、科学的根拠のもとで発見されることを期待するところです。

痴呆の症状は、介護者や家族がどのように接するかによって良くも悪くもなるので、接する人のことばや態度は重要です。痴呆の方は同じ質問や行動を何度もくり返すので、介護する人は、イライラする感情をことばに出して厳しい口調で子どもに対するように叱ってしまいがちです。こんな場合、初めてきいたつもりで緩やかな気持ちで話をしたいものです。

痴呆介護の原則として（室伏君士氏 痴呆性老人へのケアの原則より）

- 1、老人が生きてゆけるように不安を解消すること。急激な変化をさける、安心の場を与える、なじみの仲間の集まりをつくる、孤独にさせない。
- 2、老人の言動や心理をよく把握し対処すること。老人を尊重する、理解する、説得より納得をはかる（食事を食べたのにまだ食べていないと言われた場合、さっき食べたでしょと反論せず、食べた食器を残しておいて見せたり、その場で軽食を食べてもらう等）
- 3、老人をあたたくもてなすこと。老人のよい点を見出し、よい点で付き合う、拒否しない、窮地に追い込まない（叱責、矯正しつづけない）――後略――

又、介護する人の精神的身体的な健康を維持することも、上記の原則を踏まえる上で大切です。デイサービス、デイケア、ショートステイ等の在宅サービスを利用され、その間に心身のリフレッシュを図って頂きたいものです。
（村上 康子）

◆◆ 夜警員さん ◆◆

私は老健ホームの夜警員として勤めて、6年程経ちました。その間、皆様のはげましに支えられて頑張ってきました。よろこんであります。職員の日頃の御苦労と並ならぬ努力をみて来ましたが、私も夜警員として、頑張っていきたいと思っています。



前田 正



本田 浄

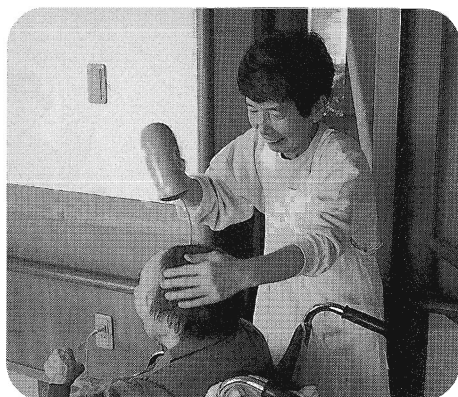
夜警員を勤務して早くも4年たちました。その間皆様方の協力の御陰で今日に至りました。大事もなく勤めた事喜んで居ります。又、入所者皆様方の御健康と私も健康で勤める事を願って居ります。今後共よろしく御願い致します。

◆◆ ボランティア紹介 ◆◆

毎週金曜日の午前に、入浴後の整容介助などを行っていただいています。

きれいに乾かしてもらい、とても気持ち良さそうですね。

前川 さん
のんびりとマイペースで楽しんでおります。



☆ 編集後記 ☆

高齢者や障害者の自立生活の第一歩は、より安全で快適に移動できることから始まり、食事や睡眠、排泄、入浴などの基本的動作に加えて、料理や読書を楽しむんだり、コミュニケーションの場づくりも重要になります。老健ホームは、高齢者や障害者が同じ空間を共有しながら住まいができる、質の高い施設になるよう日夜励んでいます。
平下